

機能語的名詞と実質語的名詞の連続性 —名詞修飾の有無の観点から—

徐 乃馨

1. はじめに

語彙が文法と密接な関係にあることが日本語学ではかつてより示唆されている（仁田 1980）。一方、日本語教育では、語彙は語彙、文法は文法（または文型）のように別々のものとして扱われることが多い（森 2011）。そのため、近年では、語彙と文法を連動させた日本語教育文法研究が必要であるという主張が見られ（森 2011、建石 2011、山内 2012、徐 2017）、日本語学的知見を日本語教育に生かそうとしている。

日本語教育では、文法に関しては多くの研究がなされ、知見が蓄積されてきているが、語彙に関しては、ことに実質語については、その数が非常に多いため、その使用実態の調査や、学習者のニーズに合わせた教育は必ずしも十分に行われているとは言えない。この現状を受け、山内（2012、2018）では、語は実質語と機能語に分けられ、実質語の中で話題に従属しないものは、語彙と文法をつなぐ媒介となるものであると述べられている¹。そして、実質語と機能語は連続しているものとして捉えるべきであると主張されている。

語彙を対象とする研究の多くは、機能語ではなく、実質語に焦点を当てるものであるが、実質語の中でも、特に名詞の研究が遅れていると言われている（仁田 1997、影山 2010、庵 2016）。名詞の研究が遅れているのは、動詞や形容詞などとは異なり、活用に伴う誤用が現れず、注目されにくいという、膨大な数があるために、調査や分析をするうえで困難な部分があるからである。

そこで、本研究は、名詞に焦点を当て、調査・分析を行う。その際、機能語に近い名詞を「機能語的名詞」、より実質語らしい名詞を「実質語的名詞」と呼ぶ。名詞修飾の有無という観点から、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」が連続体であることを検証することは、分析が困難な名詞を研究するための突破口の一つになり得ると考える。

2. 先行研究と問題の所在

形式名詞についての議論は、名詞を形式名詞と実質名詞に分けるには限界があるため、あらゆる名詞に、実質名詞としての用法と形式化した用法があると考えられる（徐 2017）。以下、日本語学における形式名詞についての議論の流れ、日本語教育における形式名詞の扱い方について述べ、従来の研究の問題点を明らかにし、本研究の研究課題を示す。

¹ 山内（2012、2018）では、「机」「見る」など「辞書的意味を担うもの」を実質語、「を」「に」など「関係的意味を担うもの」を機能語とされている。

2.1. 日本語学における形式名詞の議論

まず、日本語学における形式名詞の議論について述べる。形式名詞は松下大三郎によって提唱され、名詞の中から形式名詞が取り出され、特別視されていた。寺村(1968)では、日本語の名詞は、まず「実質性」をもつものと「形式性」をもつものと大きく分けることができると述べられている。佐久間(1983:325)では形式名詞について、「(前略) こういう種類の語を一つにまとめて、『吸着語』ということにしましょう。吸着語は、それ自体具体的な内容を保つものではなりませんので、形式的なものとして特色づけられます。」と述べられている。

しかし、そのような傾向は次第に変化し、奥津(1974:203)では、形式名詞なる語類は、日本語文法の記述において必要がないと主張されている。寺村(1978、1981)では「一般に『形式名詞』と呼び慣らわされているコト、モノ、トコロ、ワケ、サマなどの一群の名詞の働きは、その構文的機能の多様さと、その『実質的意味』の濃淡とが相関しているという点で、単に名詞の下位分類という形で記述しつくすことのできない問題を含んでいる。」と示唆されている。さらに、高市(1986:15)では、「ある特定の文において連体修飾語を取り去れないような名詞が存在することを出発点とし、そういう例を採集・分類する中で、名詞が形式化する条件」が明らかになった。

このように、日本語学の分野では、「機能語的名詞」(「形式名詞」と呼ばれていた類)と「実質語的名詞」(実質名詞)の関係について、その連続性が認められてきているといえる。

2.2. 日本語教育の分野における形式名詞の扱い方

次に、日本語教育の分野における形式名詞の扱い方について述べる。「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性は、教師側がそれらを留意することによって、中上級の読解や作文のフィードバックの際に役立つと考えられる。しかし、日本語教育の分野では、上述した日本語学的知見が十分生かされているとはいいにくく、形式名詞と実質名詞を二分する考え方が根強く残っている。

例えば、庵ほか(2000)、高見澤ほか(2004)、森山(2007)では、形式名詞と実質名詞の境界が必ずしも明確なものではないとことわりつつも、①実質的な意味が希薄であり、②普通、修飾語を伴って用いられる(単独では用いられない)特性を持つ名詞を形式名詞と記述されている。以下、①、②それぞれの問題点について、日本語学の研究を引用しながら、説明する。

まず、形式名詞の①実質的な意味が希薄である特性については、日本語学の分野では、形式名詞と実質名詞の連続性が示唆されている。例えば、寺村(1981)では形式名詞の働きはその「実質的意味」の濃淡と関わっていると指摘されている。高市(1986)では、形式名詞の語彙的な意味の抽象性・一般性、それゆえその固定性・有限性を前提とした研究は一つの限界に突き当たり、実質名詞と形式名詞の境界は流動的なものであると述べられている。また、仁田(2009)では、同一品詞に属する要素が、連続性を有すると示唆され、多くの考察がなされている。

次に、形式名詞の②普通、修飾語を伴って用いられる（単独では用いられない）特性についても、日本語学の分野では、修飾語を伴って用いられる場合と用いられない場合があることが明らかになっている。例えば、高市（1986）では「ある名詞の指示内容が、そのかかり先の動詞にそっくり含意されている場合、その名詞は形式化」し、修飾語を要求すると述べられている。例（1a）では、「越す」先が「家」であることが当然である。つまり、「家」の指示内容が「越す」に含意されていると考えられるため、名詞修飾が必要である。一方、例（1b）では、「長屋」の指示内容が「越す」に完全に含意されていないため、名詞修飾がなくても使用できる。

（1a）私は、末永家と路地を隔てたその家に越してきたのだが（高市 1986 : 18）

（1b）私は、長屋に越してきたのだが（高市 1986 : 18 の記述に基づき作成）

このように、日本語学の分野で明らかになっている「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性という知見は、日本語教育の分野では十分に生かされているとは言えない。

2.3. 残された課題

しかし、従来の日本語学的研究も十分ではない面がある。形式名詞の単独では用いられない特性について、これまで日本語学の分野で行われてきた研究は記述研究であり、量的調査に基づく分析は見当たらない。形式名詞と実質名詞の連続性を証明するには、日本語の名詞の使用実態に基づいて議論する必要がある。そして、使用実態調査の成果を用いることで、日本語教育の分野での説明にもより説得力を持たせることができると思われる。

本研究は、日本語教育の分野で根強く残っている形式名詞の②普通、修飾語を伴って用いられる（単独では用いられない）という特性に焦点を当て、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性を検証するために、名詞修飾の有無の観点から、名詞の名詞修飾を伴って用いられる頻度と名詞修飾を伴わずに用いられる頻度を量的に調査する。

もし、単独では用いられない名詞が存在する、すなわち、名詞修飾を伴って使用される頻度が 100%であれば、形式名詞と呼ばれる類が存在することの裏付けになる。逆に、名詞修飾を伴って使用される頻度が 100%である名詞が存在せず、名詞修飾を伴って使用される頻度に連続性が見られれば、形式名詞と呼ばれる類が存在しないことになり、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性が証明される。つまり、「機能語的名詞」であるほど、名詞修飾を伴って使用される頻度が高いことになる。

これにより、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性の検証を試みる。

3. 分析方法

まず、語彙リストを用いて、高頻度名詞をリストアップする。次に、名詞の名詞修

飾を伴って用いられるパターン（以下「名詞修飾あり」）の頻度と、名詞修飾を伴わずに用いられるパターン（以下「名詞修飾なし」）の頻度を量的に調査するため、使用される名詞のパターンからそれぞれのパターンを抽出するし、それぞれのパターンの頻度を算出する。

3.1 高頻度名詞の抽出

松下（2011）を用いて、高頻度名詞を抽出する。松下（2011）は国立国語研究所（2009）『現代日本語書き言葉均衡コーパス』（以下、BCCWJ）モニター公開データ（2009年度版）の書籍（BK）および「Yahoo 知恵袋」（OC）のほぼ全量に基づき作成された語彙リストである。10 のサブジャンルの頻度から分散度を計算し、総使用頻度を掛け合わせた重要度係数により語彙をランキングできるのが特徴である。

この松下（2011）を用いて、まず、Excel のフィルター機能を用いて、「重要度順語彙リスト 60894 語」から対象の名詞を抽出する（表 1）。その際、名詞のうち、数詞は単独で名詞として使用されることが少ないことから、対象から除外した。

表1 対象名詞の品詞分類

品詞	対象
名詞-固有名詞-一般	○
名詞-固有名詞-人名-一般	○
名詞-固有名詞-人名-姓	○
名詞-固有名詞-人名-名	○
名詞-固有名詞-地名-一般	○
名詞-固有名詞-地名-国	○
名詞-数詞	×
名詞-普通名詞-サ変可能	○
名詞-普通名詞-サ変形状詞可能	○
名詞-普通名詞-一般	○
名詞-普通名詞-形状詞可能	○
名詞-普通名詞-副詞可能	○

次に、「使用範囲」が「10」である語に絞る。「使用範囲」とは「10 のサブコーパス分野のうち、1 回以上出現した分野の数」である。「使用範囲」が「10」である語は、つまり、10 のサブコーパス分野のすべてに出現している語である。「使用範囲」が「10」である語に絞るのは、分野によって使用する語の偏りを排除できると考えるからである。

次に、「10 分野 100 万語あたり総使用頻度(Fw)」の高い順に並べ替え、上位 100 語を対象とする。「10 分野 100 万語あたり総使用頻度(Fw)」とは、「総使用度数を総延べ語数で割って、100 万を掛けた頻度」である。

以上の手順を経て抽出した 100 語の「見出し語彙素」（以下「高頻度名詞 TOP100」）を表 2 に示す。表 2 の中で示した名詞の読みは、松下（2011）で示されている「標準的読み方」である。

3.2 名詞修飾を伴って使用されるパターン

国立国語研究所、Lago 言語研究所 (2012) (以下、NLB) を用いて、3.1 で抽出した高頻度名詞 TOP100 のうち、「名詞修飾あり」と「名詞修飾なし」の使用頻度を集計する。

表2 高頻度名詞TOP100

	語	読み		語	読み		語	読み		語	読み
1	事	コト	26	手	テ	51	皆	ミナ	76	先生	センセイ
2	物	モノ	27	時間	ジカン	52	下	シタ	77	生	ナマ
3	人	ヒト	28	人間	ニギン	53	以上	イジョウ	78	存在	ソンザイ
4	時	トキ	29	万	マン	54	生活	セイカツ	79	名	ナ
5	方	ハウ	30	関係	カンケイ	55	会	カイ	80	経済	ケイザイ
6	中	チュウ	31	話	ワシ	56	二人	フタリ	81	大学	ダイガク
7	所	トコロ	32	国	クニ	57	頃	コ	82	父	チチ
8	為	タメ	33	男	オトコ	58	女性	ジョセイ	83	店	ミセ
9	自分	ジブン	34	社会	シャカイ	59	先	サキ	84	別	ベツ
10	日本	ニッポン	35	顔	カオ	60	法	ホウ	85	口	クチ
11	日	ヒ	36	次	ツギ	61	全て	スベテ	86	質問	シモン
12	今	イマ	37	言葉	コトバ	62	相手	アイテ	87	現在	ゲンザイ
13	場合	バアイ	38	子	コ	63	本当	ホントウ	88	市	シ
14	前	マエ	39	意味	イミ	64	学校	ガクコウ	89	中国	チュウグオ
15	上	ウエ	40	促	ママ	65	点	テン	90	語	ゴ
16	家	イ	41	力	チカラ	66	母	ハハ	91	水	ミズ
17	気	キ	42	心	ココロ	67	アメリカ	アメリカ	92	電話	デンワ
18	内	ウチ	43	時代	ジダイ	68	形	カタチ	93	気持ち	キモチ
19	他	タ/ほか	44	世界	セカイ	69	方法	ホウホウ	94	結果	ケツカ
20	子供	コドモ	45	女	オンナ	70	管	ハズ	95	主義	シュギ
21	間	アイダ	46	会社	カイシャ	71	企業	キギョウ	96	側	カワ
22	問題	モンダイ	47	声	コエ	72	情報	ジョウホウ	97	地	チ
23	訳	ワケ	48	仕事	シゴト	73	研究	ケンキュウ	98	今日	キョウ
24	必要	ヒツヨウ	49	共	トモ	74	頭	アタマ	99	教育	キョウイク
25	度	ド	50	一人	ヒトリ	75	通り	トオリ	100	県	ケン

NLB は BCCWJ の DVD 版公開データ (2011 年度版) を使用したオンライン検索システムである²。NLB では、名詞や動詞などの内容語の共起関係や文法的振る舞いを網羅的に表示できるため、「名詞修飾あり」と「名詞修飾なし」の使用頻度を産出可能である。

具体的には、この NLB で名詞を検索すると、「グループ別文法パターン」(表 3) で表示することができる。そのため、名詞とそれを修飾する動詞や形容詞などの出現パターンがわかるうえ、頻度を集計することが可能である。表 3 では、名詞の後ろにつく文法パターンを「▶」で、名詞の前につく文法パターンを「◀」で示している。

² NLB と松下 (2011) は、両方 BCCWJ のデータの一部を使用したものであるが、それぞれ使用したバージョンが異なり、サブジャンルが完全一致ではないため、厳密には同じデータベースとはいえない。

表3 名詞の文法パターン

文法パターン	説明	例
▶助詞	名詞の直後に助詞が後続するパターン	人がいる
▶助詞+動詞	名詞の直後に助詞+動詞が後続するパターン	人がいる
▶助詞+形容詞	名詞の直後に助詞+形容詞が後続するパターン	人が多い
▶助詞+形容動詞語幹+だ	名詞の直後に助詞+動詞が後続するパターン	人が好きだ
▶助動詞	名詞の直後に助動詞が後続するパターン	人だ
動詞◀	名詞の前に動詞が先行するパターン	知っている人
形容詞◀	名詞とそれを修飾する形容詞のパターン	若い人
形容動詞語幹+な◀	名詞とそれを修飾する形容動詞のパターン	好きな人
連体詞◀	名詞とそれを修飾する連体詞のパターン	その人
他の名詞との共起	名詞の前項または後項に名詞がくるパターン	男の人
接頭辞・接尾辞	名詞の前項に接頭辞、または後項に接尾辞がくるパターン	再教育
副詞化		結果、異常なし
体言止め	名詞の後項がないパターン	人。
(未分類)	上記のどのパターンにも属さない用例	

表4 「名詞修飾あり」の対象

文法パターン	下位グループ	「名詞修飾あり」対象	例
動詞◀	動詞基本形+N	○ A	言う人
	動詞連用形+N	×	詰め込み教育
	動詞過去+N	○ B	殺された人
	動詞連用形+ている+N	○	持っている人
	動詞連用形+ていた+N	○	思っていた人
形容詞◀	形容詞基本形+N	○ C	若い人
	形容詞過去+N	○ D	親しかった人
	形容詞体言接続+N	○ E	良き人
形容動詞語幹+な◀	形容動詞語幹+な+N	○ F	好きな人
	形容動詞語幹+だ過去+N	○ G	好きだった人
連体詞◀	連体詞+N	○ H	その人
他の名詞との共起	N+名詞	×	人自身
	N+名詞・接尾	×	人たち
	N+的な+名詞	×	教育的効果
	N+の+名詞	×	人の心
	N+って名詞	×	人って皆
	名詞+N	×	学校教育
	名詞+の+N	○ I	男の人
	名詞+的(な)+N	○ J	伝統的な教育
	並立	×	教育・研究

「名詞修飾あり」=A+B+C+D+E+F+G+H+I+J

「名詞修飾なし」=(総頻度-「名詞+N」-「接頭辞+N」)-名詞修飾あり

「名詞修飾あり」の割合=「名詞修飾あり」/(総頻度-「名詞+N」-「接頭辞+N」)

「名詞修飾なし」の割合=「名詞修飾なし」/(総頻度-「名詞+N」-「接頭辞+N」)

図1 算出方法

本研究は、「グループ別文法パターン」を利用し、名詞の前に動詞、形容詞、形容動詞、連体詞、そして、名詞による修飾（名詞＋の＋N、名詞＋的な＋N）がつくパターンから「名詞修飾あり」の対象を選出する（表 4）。

そして、「名詞修飾あり」「名詞修飾なし」それぞれの頻度と割合の算出方法を図 1 に示す。図 1 においてアルファベットのみで「名詞修飾あり」の対象を示せるように、表 4 では便宜上、加算対象にアルファベットの記号を付加する。例えば、「動詞基本形＋N」の記号は A である。なお、「動詞基本形＋N」(A) に「動詞連用形＋ている＋N」、「動詞過去＋N」(B) に「動詞連用形＋ていた＋N」が含まれているため、動詞が先行するパターンとして A と B のみ加算される。

4. 分析結果

「高頻度名詞 TOP100」のうち、NLB で検索できなかったため、「日本」「万」「アメリカ」「中国」の 4 語³を、検索件数が 10000 件を下回るため、「共」「語」「生」「会」「県」「側」「度」「地」「法」「市」「二人」「名」の 12 語を除外した。そして、書字形が複数あるもので、NLB での使用頻度が 1000 以上のものは、複数の書字形で検索したのち、各書字形の合計で 1 語として計算した⁴。それで得られた 84 語を図 1 の方法で計算し、「名詞修飾あり」の割合順に並べ替えた（表 5）。表 5 の中の「頻度順」は、表 2 で示した頻度順である。

表 5 からわかるように、まず、「名詞修飾あり」の割合が一番高い「日」でも 100% ではない。そして、上位であるほど、「機能語的名詞」（形式名詞とされてきた名詞）が並んでいるが、「実質語的名詞」との間に大きな差が認められず、連続性が存在するといえる。

調査結果をまとめると、①「機能語的名詞」は名詞修飾を伴って使用される頻度が 100% にならない。②「機能語的名詞」と「実質語的名詞」が名詞修飾を伴って使用される頻度に連続性が存在する。③「機能語的名詞」であるほど、名詞修飾を伴って使用される頻度が高い。

³ 「日本」「万」「アメリカ」「中国」の 4 語について、「日本」「アメリカ」は検索結果がなく、「万」は「まん」「マン」では検索結果がなく、「万」で検索した結果は「パン」と「ヨロズ」のみであり、「中国」は「チュウコク」5 例のみであるため、いずれも検索不可とし、除外する。検索不可の理由は不明であるが、同じシステムを利用したツールに、筑波大学が構築した 11 億語のウェブコーパス『筑波ウェブコーパス』(Tsukuba Web Corpus: TWC) を検索する NINJAL-LWP for TWC (NLT) では、「名詞のうち、数詞、固有名詞は排除」する旨が記載されており、NLB でも同様な処理がされている可能性が考えられる。

⁴ 複数ある書字形の合計で計算した名詞：「物」（「もの」「者」「物」）、「時」（「とき」「時」）、「方」（「ほう」「方」）、「中」（「なか」「中」）、「所」（「ところ」「所」）、「為」（「ため」「為」）、「内」（「うち」「内」）、「頃」（「ころ」「頃」）、「通り」（「とおり」「通り」）。

表5 「名詞修飾あり」の割合

	頻度 順	見出し 語彙素	名詞修飾 あり%		頻度 順	見出し 語彙素	名詞修飾 あり%		頻度 順	見出し 語彙素	名詞修飾 あり%
1	11	日	88.46	29	93	気持ち	42.34	57	34	社会	21.85
2	4	時	85.85	30	14	前	41.91	58	51	皆	21.48
3	8	為	84.66	31	32	国	41.85	59	59	先	20.89
4	6	中	82.06	32	37	言葉	40.11	60	26	手	20.71
5	57	頃	80.64	33	27	時間	39.19	61	80	経済	20.19
6	15	上	78.21	34	31	話	38.97	62	91	水	18.98
7	40	促	75.11	35	33	男	38.78	63	20	子供	18.51
8	13	場合	72.78	36	19	他	37.84	64	17	気	18.47
9	69	方法	70.27	37	22	問題	37.68	65	76	先生	16.75
10	5	方	69.99	38	54	生活	36.43	66	64	学校	16.03
11	1	事	67.32	39	43	時代	36.25	67	82	父	15.15
12	7	所	65.28	40	23	訳	35.27	68	62	相手	14.83
13	3	人	64.92	41	73	研究	34.95	69	66	母	14.21
14	94	結果	62.06	42	72	情報	34.72	70	81	大学	13.96
15	65	点	60.03	43	35	顔	33.60	71	61	全て	13.60
16	21	間	58.48	44	58	女性	31.83	72	74	頭	12.24
17	68	形	56.51	45	45	女	31.56	73	85	口	11.89
18	38	子	54.85	46	46	会社	30.86	74	92	電話	10.75
19	75	通り	54.81	47	44	世界	30.30	75	50	一人	9.56
20	2	物	54.04	48	24	必要	30.16	76	84	別	6.60
21	39	意味	52.71	49	48	仕事	29.96	77	53	以上	6.12
22	52	下	47.10	50	16	家	29.46	78	36	次	5.93
23	78	存在	46.80	51	86	質問	28.52	79	9	自分	5.01
24	18	内	45.74	52	30	関係	27.94	80	95	主義	4.20
25	41	力	44.52	53	28	人間	27.70	81	63	本当	4.01
26	83	店	44.41	54	42	心	26.47	82	87	現在	3.53
27	47	声	43.33	55	71	企業	25.64	83	98	今日	2.71
28	70	管	43.30	56	99	教育	24.45	84	12	今	2.62

5. 考察

これまで、「名詞修飾あり」と「名詞修飾なし」の頻度を量的に調査することで、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性を検証した。名詞の意味特性別に特徴が見られたので、5. では、時間を表す名詞、空間（場所）を表す名詞、人を表す名詞、内容補充が必要な名詞に分け、考察を行う。

5.1 時間を表す名詞（時間名詞）

時間や段階を表す名詞（時間名詞）は、本研究の結果（表5）からもわかるように、「名詞修飾あり」の割合順の最上位と最下位である。山内（2012）では、話題に従属しない実質語（本研究の「機能語的名詞」）について、「時間関係」に分類される語が最も多く、そのまま、もしくは助詞を付加することによって、「時を表す」副詞のようにしのできる物も多いと報告されている。本研究の結果でも、「名詞修飾あり」

の割合の上位に、時間名詞が多く、山内（2012）と合致しているといえる。

時間名詞 16 語を取り出し、「名詞修飾あり」の割合順に並べ、「名詞修飾あり」「名詞修飾なし」それぞれの例を表 6 に示す⁵。

表6 時間名詞の使用

	名詞修飾 あり%	例（名詞修飾あり／名詞修飾なし）
日	88.46	同じ日に生まれた／日が暮れた
時	85.85	こんな時に使えます／時がたつ
中	82.06	こうした状況の中／－
頃	80.64	若い頃／頃は良しと思って
上	78.21	十分な確認をした上で／－
所	65.28	と思っていたところにやってきた／－
間	58.48	私が話をしている間／間に5分くらいの休憩がある
内	45.74	葛藤しているうちに病院に着く／－
前	41.91	暗くなる前に帰路についた／前に行ったことがある
時間	39.19	こんな時間に、誰だろう／そろそろ時間だ
時代	36.25	あんな時代／時代は1970年代
先	20.89	努力の先に／亀井は、先に帰っていた
次	5.93	満ち潮の次には引き潮が来ます／次に
現在	3.53	67歳になった現在では／この使用法は現在まで続いている
今日	2.71	50年たった今日でも／今日は節分である
今	2.62	相手が死んでしまった今／今は失業中だけど

表 6 からわかるように、まず、「名詞修飾あり」の割合順上位にある名詞は、「～時（に）」「～うえ（で、は）」「～ところ（で、に、を、へ）」「～間（に）」「～うち（に）」「～まえ（に）」のように、後ろに助詞をつけて時間節として使用可能である。次に、「名詞修飾あり」の割合順上位にある名詞は、抽象概念を表すものが多い。つまり、指し示す時間は「今」以外の特定の時との相対的な関係で決まるものが多い。そのため、名詞修飾がないと、その名詞の指示する時点あるいは期間は特定できない。また、「名詞修飾あり」の割合順で下位にある 5 語はすべて「今」と関連付けて規定されるものであり、名詞修飾による指定の必要度が低いといえる。

5.2 空間（場所）を表す名詞（場所名詞）

空間や場所を表す名詞（場所名詞）は、「名詞修飾あり」の割合順の上位から下位ま

⁵ 表 6 から表 9 まで共通して、「名詞修飾あり」の割合順で名詞を並べ、「名詞修飾あり」「名詞修飾なし」それぞれの例を示すため、表 7 以降、説明を省略する。「名詞修飾あり」の割合は、意味によって分けるべきであるが、NLB の機能上不可能であるため、表 5 で示した割合（総数）で示す。「名詞修飾あり」「名詞修飾なし」それぞれの例は BCCWJ を基に作成したものであり、片方の例しかない名詞もある。

で見られる（表5）。場所名詞15語を取り出してみると、「名詞修飾あり」の割合順で上位にある「中」「上」「所」「間」「下」「前」は、後ろに助詞をつけて、物や人の存在や動作の場所の位置関係で示すことができる。そして、指し示す位置関係は相対的な関係であるため、名詞修飾を伴ってはじめてその場所を特定できる。下位にある「大学」「学校」「企業」「家」「会社」などは、位置関係ではなく、場所の名前である。そのいずれも「名詞修飾あり」の割合が30%以下である。そして、「私」と関連付けて同定できるものであるため、名詞修飾を伴わずに使用される場合、書き手（話し手）自身や、書き手（話し手）の「大学」「学校」「企業」「家」「会社」と考えられる。よって、名詞修飾による指定の必要度が低いといえる（表7）。

表7 場所名詞の使用

	名詞修飾 あり%	例（名詞修飾あり／名詞修飾なし）
中	82.06	山の中で生活した／どうぞ中に
上	78.21	台の上に机を乗せる／上を向いて
所	65.28	平らなところに置く／明日はところにより氷点下
間	58.48	鉄材の間に落ちる／間に立った彼
下	47.10	人がいる、この下に／下に落ちた
店	44.41	ピザの食べ放題のある店に行った／店によって違う
前	41.91	男の前に立つ／前にすわっていた男の子
国	41.85	実際ヨーロッパには小さな国が多い／国が作った制度
会社	30.86	ネジを作る会社／会社で受けた嫌がらせ
世界	30.30	新しい世界／世界には様々な宗教がある
家	29.46	新しい家を建てよう／今日は家の人がいる
企業	25.64	競争力のある企業／もちろん企業の生産力も低下する。
社会	21.85	農耕を主体とする社会／社会のルールを教える
学校	16.03	良い学校に入る／学校の図書館で調べる
大学	13.96	行きたい大学／これは大学の責任なのだ。

山内（2012）の具体物と抽象概念の分類によると、表7の上位にある「中」「上」「所」「間」「下」「前」などは、抽象概念、下位にある「大学」「学校」「企業」「家」「会社」などは、具体物に分類される。つまり、抽象概念であればあるほど、「名詞修飾あり」で使用される傾向にあり、具体物であればあるほど、「名詞修飾なし」で使用される傾向にあるといえる。

5.3 人を表す名詞（人名詞）

人や行為主体を表す（人名詞）は、「名詞修飾あり」の割合順の上位から下位まで見られるが、上位のものは時間名詞や場所名詞より「名詞修飾あり」の割合順が低い（表

⁶ 具体物と抽象概念は、その名詞が指す対象物を実際手で触ることができるか否か、あるいは、「あつ、（ ）がある」という単純な現象文の主語になり得るか否かという基準で分類されている（山内2012）。

5)。人名詞 17 語を取り出してみると、「名詞修飾あり」の割合順で上位にある「子」「者」は名詞修飾を伴ってはじめて指示対象を特定できるものである。そして、「人」「男」「女」のような上位概念を表すものや、「国」「会社」のような組織を表すものは、「すべての人」「すべての男」「すべての女」「すべての国」「すべての会社」のような総称的用法以外、名詞修飾で指示範囲を限定する必要がある。

表8 人名詞の使用

	名詞修飾 あり%	例（名詞修飾あり／名詞修飾なし）
人	64.92	若い人が多い／人に迷惑を掛けない範囲で
子	54.85	好きな子がいます／子は親を選べない
物	54.04	気付く者はいない／者ども、遅れるな
国	41.85	税金が安い国／運営費は国が補助
男	38.78	この男が犯人か／男は北朝鮮の工作員
女性	31.83	働く女性が増加している／女性には許されない
女	31.56	三人の女が雑誌を読んでいた／女を連れ出した二人
会社	30.86	残業のない会社／会社に迷惑をかけてもいいけない
人間	27.70	馬鹿な人間が多すぎる／人間は弱いもの
皆	21.48	ここにいるみんな／みんなが困る
子供	18.51	生まれた子供は／子どもが生まれた
先生	16.75	素晴らしい先生だ／先生がこない。
父	15.15	優しい父／父は私に言った。
相手	14.83	勝てない相手／相手に聞こえる
母	14.21	強い母／母は電話をくれた。
一人	9.56	引き受けてくれた一人は／一人ではない
自分	5.01	そういう母に育てられた自分は／自分が情けない

そして、下位にある「自分」「母」「父」「相手」「先生」「子供」などは、「私」と関連付けて同定できるものである。名詞修飾を伴わずに使用される場合、書き手（話し手）自身や、書き手（話し手）の「母」「父」「相手」「先生」「子供」と考えられ、同定できる。つまり、これらの名詞は、名詞修飾による指定の必要度が低いといえる（表 8）。

5.4 内容補充が必要な名詞

内容補充が必要と考えられる名詞は、「名詞修飾あり」の割合順の上位から下位まで見られる（表 5）。相当する 29 語を取り出してみると、上位にある「場合」「所」「結果」「通り」などは条件表現として使用可能である。また、言語表現の内容を表す「意味」「声」「言葉」「話」「質問」「電話」は、上位であるほど抽象概念を表すものであるため、名詞修飾で指示対象を特定する必要性が高いといえる（表 9）。

表9 内容補充が必要な名詞の使用

	名詞修飾あり%	例(名詞修飾あり/名詞修飾なし)
場合	72.78	墓誌なしの場合は32万円/場合によっては
方法	70.27	この音を小さくする方法/方法を考えよう
事	67.32	厳罰が下されることを望む/事を進めるには
所	65.28	春雨を使っているところに注目/ー
結果	62.06	その結果/結果として
点	60.03	間違っている点/点を取られないように守って勝つ
形	56.51	洗面所とトイレに挟まれるかたちで/形を変えて利用する
通り	54.81	静香は言われたとおりの部署についた/通り遅いわけだ
意味	52.71	営利目的という意味において/意味を調べる
存在	46.80	仏神、仏や神といわれる存在/存在をアピールする
力	44.52	腕や肩の力を抜く/力を貸してください
声	43.33	小さい声で/僕は声をかけた。
気持ち	42.34	不安に思う気持ち/気持ちを切り替えて頑張る
言葉	40.11	中国には「落葉帰根」と言う言葉がある/言葉を掛ける
話	38.97	という話も聞いたことがある/話はそこで途切れた
問題	37.68	抱えている問題も多い/問題を抱えて
生活	36.43	昔から人々の生活/生活に必要な物品
時代	36.25	古い時代に建てられた/時代の流れをつかむ
研究	34.95	継続的な研究が必要です/研究は広範囲に及び
情報	34.72	正しい情報を選ぶ/情報を整理するとき
仕事	29.96	いい仕事/仕事を紹介する
質問	28.52	という質問がある/質問は不要だ
関係	27.94	自立と共生との関係を重視する/関係を持った
心	26.47	彼は馬子の心をよく知っている/心を奪われる
教育	24.45	彼は、母親のきびしい教育をうけた/教育を受ける機会
社会	21.85	変化の激しい社会/優れた技能で社会に貢献
気	18.47	死ぬ気で働け/気にするな
電話	10.75	という電話がかかってきた/麻子に電話をかけた
主義	4.20	という主義を唱えた/主義も主張も何もない

6. まとめ

本研究は、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性を検証するため、名詞における「名詞修飾あり」と「名詞修飾なし」の使用頻度を量的に調査した。その結果、「機能語的名詞」は「名詞修飾なし」の使用頻度が100%にならないことや、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の「名詞修飾あり」の使用頻度に連続性が存在することなどから、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性が存在することが明らかになった。

そして、名詞の意味特性別に考察を行った結果、時間や場所の相対的關係、上位概念、抽象概念を表す名詞ほど、名詞修飾でその指示対象を限定する必要があるため、「名詞修飾あり」で使用される傾向にあり、機能語的であるといえる。一方、具体物や、「今」や「私」と関連付けられる名詞ほど、その指示内容を名詞修飾に頼らずとも同定できるため、「名詞修飾なし」で使用される傾向にあり、実質語的であるといえる。

このことを教師側が留意することによって、「機能語的名詞」と「実質語的名詞」の連続性という知見を日本語教育の分野に生かすことができると考えられる。特に、中上級の日本語学習者に読解や作文のフィードバックをする際において、名詞修飾と被修飾名詞の結びつきの観点から指導することが必要であろう。そのような指導は、①読解における「名詞修飾なし」の名詞の指示内容の推測、②作文における「名詞修飾なし」での名詞の使用の不自然さの原因の説明などに効果的であると考えられる。

資料

- 松下達彦 (2011) 「日本語を読むための語彙データベース (VDRJ) Ver. 1.0 (教師用)」
 松下達彦 (2016) 「第 3 章 コーパス出現頻度から見た語彙シラバス」 山内博之
 (監修) 森篤嗣 (編) 『現場に役立つ日本語教育研究 2 ニーズを踏まえた語彙シラバス』くろしお出版. (<http://www.9640.jp/genba/>よりダウンロード 2019 年 1 月 24 日) .
 国立国語研究所・Lago 言語研究所 (2012) 「NINJAL-LWP for BCCWJ」 (ver. 1.40)
 (<http://nlb.ninjal.ac.jp/>最終アクセス 2019 年 4 月 10 日) .

参考文献

- 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2000) 『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』スリーエーネットワーク.
 庵功雄 (2016) 「近代語から現代語における名詞修飾に関わる言語変化についての一考察—1 項名詞に前説する限定詞を例に—」 福田嘉一郎・建石始 (編) 『名詞類の文法』くろしお出版, 3-20.
 奥津敬一郎 (1974) 『生成日本文法論』大修館書店.
 影山太郎 (2010) 「動詞の文法から名詞の文法へ」『日本語学』29 (11), 明治書院, 16-23.
 佐久間鼎 (1983) 『現在日本語法の研究』くろしお出版.
 徐乃馨 (2017) 「日本語名詞修飾の習得研究の展望—名詞修飾と被修飾名詞の結びつきの観点から—」『日本語研究』37, 首都大学東京・東京都立大学日本語・日本語教育研究会, 165-179.
 高市和久 (1986) 「『形式名詞』と名詞の形式化」『国語学研究』26, 東北大学文学部国語学研究刊行会, 13-23.
 高見澤孟・伊藤博文・ハント蔭山裕子・池田悠子・西川寿美・恩村由香子 (2004) 『新・はじめての日本語教育 基本用語事典』アスク出版.
 建石始 (2011) 「語彙と文法を連動させた日本語教育文法研究」 森篤嗣・庵功雄 (編) 『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房, 209-214.
 寺村秀夫 (1968/1978/1981) 『寺村秀夫論文集 I —日本語文法編—』くろしお出版. 1992 に再録, 3-20/321-336/75-93.
 仁田義雄 (1980) 『語彙論的統語論』明治書院.

- 仁田義雄 (1997) 『日本語文法研究序説—日本語の記述文法を目指して—』くろしお出版.
- 仁田義雄 (2009) 「第1章 現代語の文法・文法論」工藤博・小林賢次・真田伸治・鈴木泰・田中穂積・土岐哲・仁田義雄・畠弘巳・林史典・村木新次郎・山梨正明『改訂版 日本語要説』1-30.
- 森篤嗣 (2011) 「日本語教育文法のための研究手法」森篤嗣・庵功雄 (編) 『日本語教育文法のための多様なアプローチ』ひつじ書房, 13-56.
- 森山新 (2007) 「第17章 日本語の文法」佐々木泰子 (編) 『ベーシック日本語教育』ひつじ書房, 242-276.
- 山内博之 (2012) 「非母語話者の日本語コミュニケーション能力」野田尚史 (編) 『日本語教育のためのコミュニケーション研究』くろしお出版, 125-141.
- 山内博之 (2018) 「第二言語習得における語彙と文法の連続性」『第四回 学習者コーパス・ワークショップ&シンポジウム 第二言語習得における語彙の役割 予稿集』国立国語研究所, 56-61.

(じょ だいけい・首都大学東京大学院博士後期課程)